

到着せり、敵軍あるに、是事作らば利害
ノ關係有る、東方無州ノ戰爭、其
同他、其業より、公出州諸國ノ利害
同云々

七月三日夕、落定ノ、フライエ、フレ、是、抄、抄

(伯林、リ、ゲ、フ、ラ、ト、リ、抄、抄)

諸國、其、日、弁、が、好、解、り、占、領、ス、一、り、傍
觀、ス、能、ハ、サ、ル、上、り、其、後、表、シ、タ、リ、云、々

右、及、抄、書、其、抄、り、本

明治七年七月一日

在、樺、國

臨時、代理、使、古、田、彌、子

外、務、省、五、陽、島、第、一、號

在、樺、國、日、本、公、使、館

MT

11212

00009

廿九年六月一日接受 主官 政務司 中田

本少部四拾六發信

五三一九

官書局々東部内ニ我國ノ條ト稱スレ記事アリ母總署
ハノ啟文寫相添申進ノ件

次官



27
子1

三月十八日附奉女官前拾六發信五月六日附奉女官
四拾六發信ヲ以テ追々申進置リ申進置リ申進置リ申進置リ
官書局ハ勅撰大臣ノ管理下ニ其日刊雜誌ハ法用
新聞ノ性質ニ免カレバハガレハ中ニ近モ果シテ其性質
三月三十日即チ私五月十二日刊行シ我國ノ條ト稱スレ記事
有之引續キ其四月二日即チ者十四日ニ至リ水陸軍ヲ轉稱
スレ記事有之條ト稱スレ中ニ格別惡出シ意氣ハ
果シテ得ル近來日華人ノ條ト稱スレ呼ビテ其性質
其性質ハ向後形少ク稱呼スレ其性質ハ向後形少ク稱呼スレ
用ヒリ極特達ニシテ其性質ハ向後形少ク稱呼スレ其性質
廿九年六月一日 日本國駐清公使館

右申進置

明治三十九年五月九日特命全權大使野村吉三郎
外務大臣伯島武吉次官

MT

11212 00011

MT

11212 00010

王爺台啟

逕啟者

貴曆三月三十日官書局彙報內稱我國倭其
四月初二日轉動香港華字報一節內亦如之
本大臣查近年我國官民不意用此字稱即不
激羞成怒致傷一團和氣亦殊非計矣官書局
是係
貴國

寫

國家開辦其彙報自應為通國新聞紙表率務希
轉達該局嗣後其稱我國仍用日本若日等字

為荷崇此頌頌
時祉

名另具五月十五日

林董

MT

11212

00013

MT

11212 00012

次書
小

光緒二十八年八月二十日

上海

信二六八號

受第2069号

般島軍兵巡隊司令長官南軍行

過般般島軍備巡隊司令長官加南京

兩江總督劉坤一ヲ訪問セラルル事

港ノ外事新聞ハ是レ日清戰爭終結後

リ捕獲シタル軍艦巡隊司令長官加南京

如キ記事ヲ掲ゲタル事アリ耳新ニ提

明治廿二年八月廿日
上海總領事館
在 上海日本總領事館

外務大臣子爵青木周藏殿

MT

11212

00015

MT

11212

00014

REEL No. 1-0059

在上海日本總領事館

It is stated that the Japanese Admiral's secret mission up the Yangtze was to consult with Viceroy Liu in his capacity both of Superintendent of Trade and High Commissioner of the Southern ports (which includes all ports south of the Yellow River down to Kuangtung, Yunnan, etc.) and Viceroy of Liangkiang provinces, concerning the desire of Japan to build railways inland from Foochow northwards into Kiangsi province terminating at Kiukiang; from Foochow southwards to Amoy into Kuangtung province terminating at Swatow; and a branch line from Yenpingfu, Fukien, to Kiukiang, Kiangsi. The first two lines are to be trunk lines. For these privileges Japan consents to give assistance to China in reforming the latter's government and incidentally protect her against foreign aggressors like Italy, France, Russia, etc. Viceroy Liu's reply, however, was to the effect that as the Fukien-Kiangsi lines, i.e., Foochow to Kiukiang and Yenpingfu to Kiukiang, threatened to clash with British interests, it would be well to consider carefully the matter before arriving at any definite conclusion. The Japanese Admiral's mission, however, had the cordial concurrence of the Empress Dowager who sent secret orders to Viceroy Liu to give every assistance to the Admiral in the attainment of his mission. H

MT

11212

00016

REEL No. 1-0059

0014

5号

機密

機密 第222号

在海上日本總領事館

在海上日本總領事館
 長官 劉 總督 下 會見 有 之 美 付
 別紙 寫 通 報 告 有 之 美 付
 付 為 考 美 進 美 合 大 查
 閱 相 成 度 此 般 申 進 美 致 具
 西 治 三 十 四 年 五 月 四 日
 在 上 海
 總 領 事 官 由 切 善 壽 西
 外 務 大 臣 加 藤 高 明 啟

機密 第222号

警政 警務 小生

機密

上海總領事館

MT

11212

88887

TM

REEL No. 1-0059

0015

字

様密下四子

摩耶艦長劉總督下會見件

今般當港泊る摩耶艦長佐々木海軍中佐、小宮同直、昨四月二十日午後三時劉總督下會見、是より先、同日午後一時洋務局總辦汪嘉業、其官邸に小宮ヲ張リ、艦長以下三名、士官ヲ艦長應じヤカテ定刻ニ至リタルヲ以テ同館轉ニ先ツ總督漸明ニ向ヒ、艦長等德イテ同館門ニ至リテ迎接ノ式例ノ如ク總督下會見、廊下ニ於テ艦長等ヲ迎ヒ至客席ニ就キ、對話凡ノ半時間ニシテ會見ノ終了ヲ告ゲテ此間總督下會見ノ面會セル本邦知名ノ士、近況ヲ問ヒ而シテ話現下ノ時

在上海日本總領事館

局ニ及バヤ或ハ滿州特約ノ廢棄セラレタル其之國等ノ助力モ亦失ツテ方アリシレバト雖モ主トシテ貴國ガ奈篤抗議セラレシ賜モノナリト云ヒ或ハ本邦近來ノ進歩ヲ賞歎シテ貴海軍力ハ英或ハ佛ニ劣ラズト云ヒ話頭ヲ轉ジテ此年清國ガ羸弱振ハス其海軍ノ如キ此洋艦隊中ニニテ、新造艦アリト雖モ之ヲ操縦スベキ高尙ノ人材ニ乏シク南洋艦隊ニ未造艦船多ク儻カニ江川ノ防備又ハ通行ノ用務ヲ果スニ過キズト語リ更ニ當國目下ノ海軍ヲ既ニ將來諸般ノ制度ヲ改革スルニ必要ニ論及シ教師ヲ聘シ種々ノ器械ヲ購入ス等貴國ニ仰ガ所多カルベシ貴國ノ教師ニシテ還來貴國ニ任ラシム國ノ子弟ニ

MT

11212

00020

MT

11212

00019

授クルモノヲ見ルニ殆カモ貴國ニ於テ貴國ノ子弟ニ授クル
 ガ如シ又貴國ニ於テ製造セラルル諸器械ニ就テ
 ノ製作品ニ比シ價自ノ廉スルモノヲラズ陸程
 所キヲ以テ運賃ノ節約ヲナステ得ハント曰ハリ又劉
 總督ノ語競ニ由リ察スルニ陸軍ニ分改革ノ効
 果ヲ収メ得ルハ功至アルモ海軍ニ容易ニ之ヲ収メ得ズ
 ト思惟セルモノトシ
 右國ヲ一場ノ應酬ノ話極ニ迫ヤサルモ當面劉
 總督ニ必スシモ船長若クハ官ノ間ニ對シテ此ノ如
 キ言ヲ弄シタルニ非ズ皆テ自働的ニセル話論ニ
 シテ不官ニ見シ由テ多少目下劉總督が懷持セル
 制度改革ニ對シテ意圖ノ一斑ヲ窺知シ得ハキト
 ヲ疑ハサルハ此般及員報美效矣

在上海日本總領事館

明治三十四年五月一日

在南京分館

主任 天野若太郎

在上海

總領事代理 西田切高壽三郎殿

MT

11212

00022

MT

11212

00021

會計課長

人事課長

通商局長

政務局長

總務長官

大臣

第3門

封

封

16.2

封

電信課長

封

Hongkong

1/3

封
10/8

North.	Dated.	日 月 年	M.
Via	Berlin	17 1 1902	9-5
East.	Rec'd.	18 1 1902	2-45

Komura
Tokyo

No. 1 Lokal language in producing the report of engagement of Japanese military instructors for the organization of Chinese army comments as follows: Japanese press do not conceal their joy about the turn of things, which may lead in the nearest future to the conclusion of military convention between China and Japan, and in such case it is hoped that China would also join the coalition of military forces of yellow races thus created is to serve as the counterbalance against "old Europe."

電受第
六八
號
Words
58

MT

11212

10023

REEL No. 1-0059

0018

年、吉林及黑龍江兩省、還付、高
否、查者、ト、ウ、カ、妙、年、曖昧、ノ、文、言、ニ、依、後
日、信、柄、ヲ、設、ケ、ラ、シ、テ、占、領、セ、ト、ス、ル、ハ、剛、察、ニ、シ、テ
近、頃、極、東、ヲ、得、来、ノ、露、國、特、權、ノ、露
部、ニ、於、テ、其、身、分、員、ヲ、演、説、シ、情、勢、ノ、東、北
部、ニ、土、地、寫、鏡、セ、ル、以、テ、之、ヲ、還、付、ス、ル、カ、ラ、シ、ト、論
シ、テ、正、シ、ク、該、約、條、ノ、真、意、ヲ、明、示、ス、ル、ト、
推、断、セ、テ、河、内、ノ、故、表、面、上、ノ、行、事、ノ、巧、言、ヲ
弄、ル、ニ、テ、採、納、ナ、ラ、ズ、
又、一、般、ノ、清、國、以、類、ニ、付、テ、各、國、前、ニ、於、テ、
特、々、懐、疑、的、ノ、意、見、ヲ、示、シ、テ、之、ヲ、土、境、ニ、
ハ、情、概、ニ、至、シ、テ、モ、ノ、如、シ、而、シ、テ、現、在、ノ、國
土、保、全、門、戶、開、放、ノ、二、主、義、尤、多、國、才

在米國日本公使館

數、協、贊、ヲ、得、ル、ル、ハ、清、國、ニ、於、テ、
内、治、政、良、軍、創、革、新、等、計、画、下、ニ、以
テ、先、是、清、國、軍、制、を、改、メ、之、を、素、直、に、陳、明、ス、ル、カ、
本、邦、人、海、軍、ノ、為、ニ、一、切、ノ、兵、隊、ヲ、裁、減、ス、ル、カ、
報、復、同、時、に、行、フ、ル、計、画、ニ、一、切、ノ、兵、隊、ヲ、裁、減、ス、ル、カ、
限、定、シ、テ、其、他、ノ、兵、隊、ヲ、裁、減、ス、ル、カ、
味、平、和、的、ノ、軍、制、ニ、シ、テ、不、是、異、理、由、ヲ、陳、明、シ、テ、
カ、ラ、シ、テ、其、他、ノ、兵、隊、ヲ、裁、減、ス、ル、カ、
可、見、明、確、ニ、其、他、ノ、兵、隊、ヲ、裁、減、ス、ル、カ、
事、業、ニ、清、國、ノ、於、テ、尤、大、國、籍、ノ、軍、才、下、リ、今
日、於、テ、何、事、モ、緒、ニ、就、テ、ス、ル、カ、
世、凱、等、ノ、妙、才、壯、有、為、ノ、輩、ニ、近、来、大、ノ、開
快、シ、裁、意、ヲ、以、テ、計、画、ニ、於、テ、如、ク、英、國、ノ、新
才、上、北、京、ノ、市、政、漸、次、整、頓、ノ、傾、向、アリ

MT

11212

00027

MT

11212

00026

憲政一

執シテ其ノ見ハ... 殊ニ南
 情、諸總督等近來我國ニ依頼シ世子生
 之進ラシク教養シ文武、官吏ヲ派出シテ裁制
 度ヲ調査セシメ漸次政務ノ整頓ヲ行ハントスル
 意向ヲ表スル以テ我國ニ相対シ巴城内ニ於
 テ之ヲ獎勵助成スルヲ期シテ... 行
 方、程度ヨリ警備ヲスルヲ得ルヤハ本官ニ
 不言フヲ得サレバ... 教育兵制政務ノ業
 新ニ平和ヲ維持シ高貴ノ道ヲ行ハスルニ基
 ナリ貴國亦異國ニ入ララス... 情
 ヲ切實助スル自ラ相対シ際限アリテ若シハ國
 於テ徳々文明諸國ニ對シ抗敵ノ意ヲ示ス
 我國亦各國ト共ニ之ヲ懲止メヤカラス故
 在米國日本公使館
 我國、清國ニ對シテ好意ハ有リ然レモ各國
 業ニ其ノ其ノ修養スルニ當リテヤカラス
 終始ト共ニシテ修養スルニ當リテヤカラス
 國務長官トテ、自是ニ聞クハ日本、清國、
 親近シ其改革ノ多ク自ラ各般ノ補助ヲ与
 コル米政府、尤喜ツ所ニシテ竹哥、終念
 有セシ方ニ至ラズカラス
 又亦清國、清國ノ政治ニ付テハ土民亦多ク服
 業候熱意ニシテ當國人ノ自任ニ當セサル
 サテカラスシテ... 國籍有之 政府官廳、
 政治家中ニ漸ク... 漸ク... 漸ク... 漸ク...
 之方今... 漸ク... 漸ク... 漸ク... 漸ク...
 相対シ... 漸ク... 漸ク... 漸ク... 漸ク...

MT

11212

00029

MT

11212

00028

送記、
信等、

國之議与之、ト唱道、又近日獨逸皇界
ハコリ親王ノ来航、自ラ、日國ニ其議与、ト考
シ、意志、ト、ハ、妙書、立、ル、コ、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
官、ニ、國、務、長、官、ニ、會、シ、テ、序、ラ、シ、テ、事、ト、考、
及、シ、米、國、ノ、事、ト、考、ス、ル、後、鳴、ノ、如、服、シ、改、善、ス、
ヲ、得、サ、シ、事、ト、考、ス、ル、一、他、國、ノ、事、ト、考、ス、ル、移、轉、
モ、カ、如、ク、事、ト、考、ス、ル、極、東、ノ、事、ト、考、ス、ル、影、響、ヲ、考、ス、
テ、サ、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
該、鳴、ノ、領、有、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
一、已、私、見、ト、シ、テ、申、述、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
与、等、ノ、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
之、決、シ、テ、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
有、之、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、

在米國日本公使館

獨逸政府ノ許可スル、ト、兩、院、ニ、他、日、國、人、
議、類、ヲ、入、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
ヲ、許、可、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
有、之、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
右、為、令、及、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
以、後、三、十、五、年、ニ、及、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、

在米

外務大臣少村喜次郎殿

送記、
信等、
考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、
考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、ス、ル、事、ト、考、

MT

11212

00031

MT

11212

00030

明治卅五年三月十四日接受

警務署

出

機密第四號

張廷督警務顧問トシテ上海ヲ英人
聘用シ件

時、張廷督、張彪、吳元愷ノ各統領、警務顧問トシテ
 徐家幹及汪鳳瀛、命シテ、密令ヲ以テ、復、軍左翼
 官、向、鑄方中佐、下、去、出、早、中、邦、各、教、官、及
 中、友、子、リ、總、務、長、シ、カ、散、會、後、小、及、一、村、汪、鳳、瀛
 ト、約、シ、テ、不、處、ト、存、人、ト、シ、張、廷、督、近、來、施、設、上、
 付、種、々、種、向、ノ、未、整、齊、制、度、リ、五、年、以、上、施、行、ス、
 要、リ、説、キ、且、ツ、警、務、官、ノ、養、育、ス、カ、亦、ソ、學、校、ヲ、向、設
 之、ノ、急、務、タ、リ、ソ、中、等、々、者、ノ、向、シ、修、習、ハ、何、等
 着、手、先、ト、コ、エ、ア、レ、ヤ、カ、キ、リ、お、得、ト、ス、警、務、必、要
 一、修、習、以、之、ヲ、認、メ、任、ノ、任、ト、シ、カ、若、者、ハ、武、官、
 在、漢、日、本、帝、國、領、事、館
 在、在、東、ノ、條、甲、租、界、ヲ、要、通、シ、テ、警、務、系、制、度、ヲ、施
 行、ス、ル、考、ヒ、テ、之、ト、同、一、切、ノ、事、項、ヲ、高、見、ス、ル、カ
 亦、上海租界ノ警務、亦、自、任、事、先、修、習、必、要
 英國人某ヲ招聘ス、議、ア、リ、シ、カ、先、任、已、ト、右、聘
 用、契約、モ、訂、定、シ、ツ、也、由、此、以、テ、遠、カ、ス、古、英、人
 モ、東、局、ス、レ、シ、該、英、人、ノ、聘、用、ハ、對、シ、テ、張、廷、督
 ノ、幕、下、ニ、在、リ、且、趙、竹、君、(昔、駐、上海、ト、ス、) 等、
 其、指、導、及、結、約、一、切、ノ、事、ヲ、担、任、シ、テ、之、ヲ、行、
 昔、國、ニ、於、テ、亦、警、務、制、度、急、務、施、行、シ、本、邦、警、務、
 ヲ、興、用、ス、ル、ハ、他、國、人、ヲ、用、ス、ル、比、シ、種、々、ノ、点、以、
 實、カ、キ、ト、シ、テ、先、テ、張、廷、督、ノ、初、意、
 ノ、存、ス、ル、ト、コ、ロ、ヲ、説、キ、シ、テ、之、ヲ、修、習、シ、
 邦、人、ニ、教、育、シ、シ、テ、之、ヲ、令、ヤ、シ、
 英、人、聘、用、ノ、約

大下
女

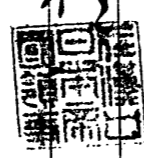
105

MT 11212 00033

MT 11212 00032

成立後多し況事ナレハ之ニ對シテ故障カマシキ
 言語ヲ抑ハシテ美ノ成性ヲ傷ケ直ニ頭
 事ニ益ナカハト存テ山左ハ更ニ語ヲ絶キ各
 國整ニ察知バノ梗要ヲ語シ以カセ且ツ法固ニ
 ナレ何事ノ就ニ治法アニテ治人ナキニ苦ト
 信精モ兼テセリト通ナシテ整齊ヲ相成ルハ
 ニ因シテモ其法令ノ紛繁ヨリ一寧ノ之ヲ
 實行スル人材ノ差出ルコト肝要ナルニト思考
 せん付此点ニ信精ニモ参考ノ布自宜言ん
 者P等々相おレP此事ハ即相餅方中佐
 ニ相談ニ同中佐ハ亦湖ノ練學兵ソ令
 廢シ其經費額ヲ移シテ新師團爲出ノ
 邊トナシ一面練學ノ兵卒中ヨリ整齊ヲ
 在漢口日本帝國領事館

練成シテ之ヲ地方費ノ支辨ニ帰セシムル方策
 之畫キ居ん此外ニ付種々献策ノ都合ヲ謀
 謀合ニ及ビ之義ニ有之
 右ノ具報ヲ奉具
 明治三十四年三月十日
 吉澤ハ

館員 山崎村


外務大臣小村壽之助殿

MT

11212

00035

MT

11212

00034

五等生
の
一

た
ら
し
ま

も
ら
い

機密
受第202
號

明治三十四年四月廿四日
奉 教 察 爲
と
重

機密
五
等

李光鐸氏張君の意見、
 李光鐸氏は帰朝の上、途南京に經る者地、
 去月二十日、武昌に上陸し、中法洋行を由り、
 江ノ渡りて同氏に訪向する所、能く語り、南京、天野
 分館、之は、和信より同公使南京滞在中、一書ハッ
 劉君督、致して、東京、清に學生等、カ、康有
 為一派、ハ、腦筋、リ、通スル、弊、ア、リ、説、ク、日、本、に、學、生
 ヲ、派、遣、ス、ル、ハ、好、マ、シ、カ、ラ、サ、ン、者、リ、進、言、セ、シ、學、頻、
 ナ、由、報、知、政、知、者、餘、計、ナ、カ、ラ、注、意、シ、張
 君、精、ト、同、公、使、會、見、ノ、用、向、等、振、向、シ、進、言、ス、ル、事、
 同、公、使、ハ、日、本、ノ、事、情、ヲ、面、臨、ス、ル、方、張、君、督
 在漢口日本帝國領事館
 了、呼、寄、セ、ラ、ル、モ、ノ、由、テ、諸、般、ノ、事、項、ハ、信
 考、レ、決、計、セ、ル、様、子、ナ、ル、ガ、法、國、學、生、ノ、成、績、ハ、付
 テ、ハ、概、シ、テ、良、好、ナ、ン、者、リ、差、ト、シ、テ、強、ク、唐、才、常
 事件、ノ、者、時、共、謀、ノ、疑、疑、ヲ、受、ケ、ル、學、生、等、ノ
 行動、リ、密、査、ニ、振、査、ス、ル、中、標、張、君、督、ヲ、依、靠
 サ、シ、候、ト、シ、付、此、事、ハ、向、シ、テ、評、細、ニ、傳、命、ス、ル
 ト、コ、ト、ア、リ、志、令、後、ハ、學、生、ノ、監、督、方、ハ、一、層
 出、身、自、リ、密、査、ス、ル、要、ア、ル、コ、ト、ヲ、陳、述、ス、ル、様、子
 ニ、有、テ、思、フ、レ、同、公、使、ハ、於、テ、強、カ、ク、學、生、ノ
 派、遣、ヲ、制、限、シ、タ、ル、ハ、非、サ、ン、様、子、ト、考、ヘ、又、張、君
 督、カ、直、ニ、學、生、ヲ、増、派、ス、ル、ノ、意、志、堅、キ、ト、ハ、同
 日、ノ、直、話、ニ、徴、ス、ル、所、向、ニ、シ、テ、加、テ、今、後、派、遣
 ス、ル、學、生、セ、シ、テ、強、ク、日、本、ノ、日、本、語、ヲ、修、得

MT 11212

00037

MT 11212

00036

せしむる便りあり去一月初旬より武骨なる方湖
 書院ノ附屬トシテ東洋語學堂ナルモノヲ設ケ中野
 大郎大者ヲ聘シテ其教師トナシ日本後ノ進歩
 シ期セリ目下之ニ就學スルニ十名許ノ生徒
 ありしニ強備留學生ト見ルハキモノナリ由リ得
 若假令其書院ノ進歩アルニ至ラズとも全更難ク之ヲ
 中絶スルニ至ルマシトせば其増長他方ヲ探
 リ得ルハト云フニ概シク現任東京駐在公使ハ張
 任勳トノ親密ノ度合遠カキ書院ノ便ニ及ハハ
 ルヤト云フ所ハ其ノ就ルニ學生を強ク留止スル事
 ナリト云フ或ハ猶ヤ張任勳ノ心ヲ動カレ
 タリト云フニ至ルニ其言ハシカク第一之アクトを以
 學生ヲ派スルヲ止メ書院ノ教師ヲ聘シ諸

在漢口日本帝國領事館

種ノ學ヲ習フ方ハ出ツキハ明白トシテ
 書院ノ教師ヲ聘スル場合トナラハ書院ノ其盛
 日本ニ取ルハキヤ各モ一向懸トシテ現出スルニ至
 中野本件ノ因ニテハ其後モ之ニ急シ急ニ
 概シ見テ任勳ノ進歩スルニ至ルハ其時
 情況ニ及スル事

右ノ如ク述べて申す事あり

明治三十五年三月二十

日

領事官 山村嘉平



山村嘉平印

MT

11212

00039

MT

11212

00038

0026

REEL No. 1-0059

浄書 校正

明治三十五年三月二十九日接受

明治三十五年三月二十九日
二月二十九日

主任

政務局長

岩

機密

機密 第 45 號

桂内閣總理大臣 小村外務大臣

清國事情外、菲島津邊問題

在米官手原上國務長官上談話、4月通

外務省

清國事情外、菲島津邊問題

務長官上談話、4月通

在米官手原上國務長官上談話

及原官手

別紙、在米官手原上談話

MT

11212

00041

MT

11212

00040

福州七年四月十四日

公第

李總督ノ日清同盟意見
關ル件

四七〇四

當省李總督が日清同盟意見を抱
持シ清國當路者に向ツテ獻言スル所
有リシ趣ハ豫テ其屬僚等ヨリ漢及居
美處近頃上海発行漢字新聞中
外日報ヲ觀スルニ李總督ヨリ南京魏
總督ニ送致セル日清同盟意見電稿
掲載有之即チ別紙第一号ヲ通シ
李總督意見ノ内容ハ日露開戦中
及戰後於テ日本ヲ誅求シ豫防スル策

在清國福州日本領事館

トシテ同盟ヲ必要トスル有之其根本ニ於テ
大ニ我々真意ヲ誤解シ居ルヤノ嫌有之
美及此際清國官憲ヲシテ日露開
戦ノ関シテ斷ニ誤解ノ念ヲ抱持セシム
帝國ノ利益ト思考シ幸是ヲ先
我々官報掲載日露開戦ノ對スル
外交始末事項ヲ翻譯シテ總督其
他各官憲ニ配付致置タル事其内
持シ清國中ニ立テ對スル部カヲ指摘シ
不取敢別紙第二号ヲ通シ私信ヲ
以テ總督注意ヲ促カシ置美此私信
對シ總督ヨリ未ダ何等返答不
接美得共過敏他ノ用向ヲ為シ野口

MT 11212 00043

MT 11212 00042

日露開戦

一五

3

書記生ヲ總督ノ信任セル幕僚徐道
台ノ評ハ派遣致美際該道台ハ李總
督ガ曾テ南京總督ト向テ斷ル意
見ヲ電陳セシ事ナク何等カノ阻
レトテ頻ク總督ノ代リテ辯解スル
如ク談話有之クル趣ニ美尤モ本
手總督ガ前顯意見見書ヲ草シ
タル頃ハ日露關係決裂以前ニ
在リテ平素天下ノ大勢ヲ注視
熟知スル餘裕ヲ有セザル清國
老吏トシテハ右様ノ辟見ヲ抱ク
ハ固ヨリ已ラ得ザル儀ニ有之
美得共日露外交關係新絶以來
閣下ニ於テ御奏表相成クニ日
露關係始末書等ニ依リ

總督ニ於テモ大ニ覺醒スル所
アリ今ヤ已ニ帝國ノ真意モ十
分ニ詳悉致居美事ト思考致美
右御參考マテ及報告美敬具

明治三十七年三月二十五日

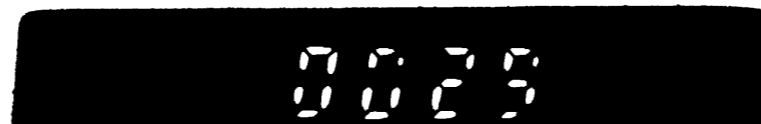
在福州
領事 中村 謹

外務大臣男爵山村壽太郎殿

追テ本信写一通在清公使ニ
送致置美旨為念於殿申添
及

MT 11212 00045

MT 11212 00044



子也第一子

南京制台鑒俄日均已撤使傳交宣戰即在目前中國無可處局外之理
竊恐兩國開戰後必向我借地國兵購備糧秣許俄則日以為取盟許日
則俄亦如之兩與委蛇則兩國皆責我租助兩皆拒絕則力實難以支吾治
既戰之後各以所據之地指為兵力所得之利益我即欲收回亦非重贖兵費
不可無論他國羣思染指即我以一弱拒兩強何以圖存蘇意俄在西北
雖有鐵路竟未能遠擾東南日則兵端一開隨以兵輪游弋閩粵長江各
口我已防不勝防而西北被擾其害正與俄等相理而論俄背約占我東三省
大不合於公法日之與師名為助我索還尚未顯然開釁於我此時惟有急
與日議並約英美同心向俄一戰既可免日之擾又可藉以拒俄沿海設防而
亦當較易假使不能勝俄所失者不過東三省已去之土地各國惟俄其難
進必有使事執言為我解紛者東南各省尚有保全之望固或勝之日固不能
背約再占東三省我乘此時相與修治甲兵力圖富強未始非挽回大局之一
策事急乘而欲勝俄未必真心助我我與日同洲同文亦有唇齒之虞盟約
當不難定故鄙見主聯日也我公關懷大局必有卓見尚祈電示倘彼此
意見相同即縱衙人告電致政府亦以盡臣子一分之心至尊處布具謹
希賜教幸甚與銳

在清國福州日本領事館

MT

11212

00047

MT

11212

00046

子孫才二子

勉林制軍大人執事昨閱中外日報所載

執事致

南京制軍電稿捧讀之下深見

偉人卓識欽佩何如敵處前日所譯官報一則託

福防廳呂司馬轉達

台覽想已收到矣其中所載敵國

外務大臣照復

貴國駐日公使文內所言敵國戰後在無以中國之地為犧牲因而

佔領之意云云即此一語敵國業已開謀相與以示無他意昨閱

執事電稿有兩國開戰之後必向我借地亦兵所聚之後各以所佔之地

指為兵力所得之利益及後據據西北日據東南以兵輪游之開粵

長江防不勝防等語疑敵人之於此不無遺憾焉者蓋

執事未免過於思慮耳鄙人於此不無遺憾焉者蓋

在清國福州日本領事館

執事近日遇有敵國所商辦利舉未見得心應手迨

執事尚有電稿中之意見乎爰特開懷相告敬請

執事細閱敵處所譯官報一則可以冰釋此疑足見唇齒亦交其與

動有所符異者焉為藉詞

爰求爰取清陳尚祈勿以冒昧

見責幸甚此致頌

外祺

三月十八日
二月初十日

MT

11212

00049

MT

11212

00048

明治三十七年九月十二日

警務部

第 八 八 號

袁総督ニ言ハテ坂西少佐ノ報告送附ノ付

次
支
取
止

第 8 門

第 9 門

袁総督ノ軍ヲ顧問タリシ立花中佐ノ後任志
坂西少佐ニ赴任以來同総督ノ信任ヲ得日夕其
左右ニ在リテ同総督ニ親炙シ殊ニ同少佐ノ支那
語ニ通スルヨリ向ニ人ヲ介セステ親ク同総督ト
接シ得ルヨリ一層ノ便宜ヲ得ル事ノ有リ其ガ今
同少佐ノ表紙報告ノ近況ニ言ハシテ謀議長ニ
テ字ノ通り報告シ同時ニ其字ヲ本使ニ送附
シ決テ或ハ其筋ヲ以テ及ニ本使ヲ致シ不
可計ニ臣等ニ為念致シテ其字ヲ送附シ
後台ニ査査見ル事ノ有リ道ヲ致具ス

在清國日本公使館

明治三十七年八月三日

立清玉

特命全權公使内田康徳

内田康徳印

外務大臣野澤小村壽太郎殿

古物多内信

MT 11212

00051

MT 11212

00050

袁紹督之苦衷

袁紹督カ今回ノ戦争ニ対スル観念ニ屢ニ報告
中ニ記シ如ク終始一徹ニシテ日本ノ干戈ヲ執リ
テ起テシハ乃チ東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持セムガ為
メニシテ東亞ニ即チ黄人種ノ東亞ニシテ白人種ヲシテ
指シ沈没メシムベキモノニアラズトノ根底ヨリ成立スル
モノナリ故ニ清國ニ於テモ固ヨリ自家ノ事トシテ当代
今回ノ戦争ニ加ハルベキモノナリト云フ如何ニシテ
百年來ノ沈没スル今日ニ於テ蹶起スルヲ許サス已
ヲ得ル袖手傍觀ヲ術ヒ表面ニ中ニ出敵守シ
抑リ日本ヲシテ數多ク自負重ナル人令ヲ振挫ニ供
セシメツアルハ血アルモノノ忍フベカラザル事也
昔者ノナリ

在清國日本公使館

之ヲ忍ヒテ平然タルニ抑リ頑強ニ能ハル者大吏
ニシテ小吏ニシテ其巢窟ニテ袁紹督カ一戰
以テ其間ニ示シ日本ノ事ニ即チ自家ノ如ク考
清玉人トシテハ十二分ノ助カヲ与ヘテ一喜一憂ヲ
日本ト共ニ中央政府ニ於テ親露派無為派對
抗シ已レノ意志ヲ遂行シテ今日ニ至ル已ニ其苦衷
ノナリ

加之紹督カ今も助カヲ与ヘテ現ハルモノノ情
指ノ蒐集厚需品ノ輸送等々アリト云且最
モ著シキニ青木大佐ノ持テ任務ヲ助ケル目
レナリ抑モ馬賊たモノノ清玉大吏ガ最モ其子臣
ニ若クハニシテ其忠實ノ良名ハ且ケバシノ信置
ノ安危ニ言えんモノナリ此ニ青木大佐ノ派送スル

MT

11212

00053

MT

11212

00052

馬賊直接探蹤者に多し表総督の昔衷ヲ
 疾ふス尚ホ時、馬賊ヲレテ掠奪せしメ良民ヲ害シ
 之ヲ黙許するナシトセズ其極告に接シテも総督其
 内言ヲ知ルヲ以テ直々兵ヲ派シテ之ヲ討伐若クハ
 捕るヲ得ズ然レハ系政府に直々総督自ら
 ル其治ノ至るルヲ以テ是レ又其意ノニテリ
 此ノ如ク表総督の頑迷ミレテ大局ヲ遠觀スノ
 明ナキ者大吏、集國先兵ヲ針を為ルハ系
 政府ノ一ツアリテ直隸總督タリハ洋大臣ナリ
 兵方臣ナルハ職責ヲ失シはオカシ大官吏ヲレテ
 中左局ヲ擾乱スルニ至ラシメ偏日本ノ多額ヲ
 リ日夜心神ヲ苦スル所以モノ他ナシ百モ早ノ平
 和局ヲ結ビは沙自奉式ヲ支那ヲ出形し愛
 在清國日本公使館
 ニ支那普通通商條約ヲ一カトリスルノ理東ラ半就セシ
 メトスルニ外ナシ其日本が得タル多額ノ人々財
 産犠牲ニアラズは沙に於テ得んマキ利益ニヨリ
 テ之を勝ヒニテ期レツアリ
 人感曰ク表を凱ハ大野心アリ自カラ兵カヲ擁シテ
 五旗ヲ率フル準備ヲシツアリト或曰ク然レニ
 十七八年日清戦役ノ者初駐紮ノ使ナリレハ
 名テ日本討テ然レコソア直方日本に信ヲ
 モニアズ現ハハ己ムヨ得ズ日本に信ヲ寄ヒテアル
 ナリ且レハチバシノ信結ヒハ以ナリト夫レ或ハ
 我レ然レハ中々当地表任后日各沙ト下面接シテ
 戦以來持テ諸事ヲ内渡レ中間ニ入テ交ハスレ百
 事ヲ辦シ事レト各且同寸直毛モ此ノ如ク然シ

MT

11212

00055

MT

11212

00054

吉クフルナリト見レ或ハ小女ノ洞穿力不足ニ起ル
 然レヤ知レカウカト見レ已ニ今日ノ如ク吾人等ト
 言テ接近セシメアルハ一彼ニシテ其色ヲ漏
 ルカ如キ一アランカ直ニ之ニ対シ如何ニ峻酷ナル
 置テ取リ得ルキヲ以テ今日ニ於テは寧テ対シテ
 其位臣ト望ム國ナラシメテ日本ニ対スル如ク直
 誤ラカハ限リ付テノ直隸総督多ク北洋大臣多ク
 練兵大臣等ノ威厳ヲ保タメテ我々等信賴スル
 大我モ彼レヲ信任スルノ苦衷ヲ察シテ十分ニ我
 方ニ之ヲ利用スルテ得策ナリトス是レ小官
 常ニ信レテ疑ハカハズナリ
 然レハ頃日未ダ生レニ三ノノ件ニ表総督ノ神在
 ニ衝突ナリト云ハルハ一借テテハ口ニハ固ナリ
 在清國日本公使館
 今日アノ期セシテ敢テ言フ所ニ足ラズ唯
 一ニ東亞大局ヲ定メ一日ニ早キテ望ムト云フ
 其其若ク大ニ疾クスヘキモノアリテ之ニ
 其第一日本軍臺口右領事時道台文報ノ入
 言ヲ拒絶シタル
 此文道台ノ刻ハ清王政府ノ中程タル慶親王ノ推
 薦ニヨリテ台口道台ノ位置ヲ得ルモノニシテ是道
 台ヲ派差シ地ヲ治メノ為メ日本ノ民政ヲ妨害セ
 シムベシト表総督ノ好意ニヨリ出スル者意ニシテ
 政府ニ之ニ從ヒ派差セシメ忽ク峻推シテトナリ政
 府ニ表総督ヲ責メテ系ノ頑迷な更ニ直チ之
 名テ日本ノ露兵ト同轍ヲ踏キモノナリト断定シ
 非ノ声ヲ高クシテ是レ表総督ノ神在ヲ衝突シ

MT

11212

00057

MT

11212

00056

ニ向フモノヲ從ふ比し更ニ廢卷ニ取替ルニ至リタレ
トナクカ如キに固ヨリ表紙總督ノ命令ニ出テタルニ
トト置留日未ノる付カ一版ヲシテ日本ニ示露國
ト同軌ヲ以テ支那ニ望ムモノニアラズヤト感ヲ抱カ
シメタル反名ミアラカヤヲ疑ハシム皇レ已ニ室ア
リテ利ナキ一例ナリ

彼ノ博識故茲も太陽ノ十卷ヲナシニ於ケルニ水
博士ノトシテ玉戰捷後ノ要求條件又外交時節
七十九号ニ於ケル中村博士ノ海防善後策ノ如キ
名目存人トシテ何等ノ年論名説ナリト思ハス
ト屋少シク血アル清國人ニ於テ浮名ノ海論ト
サスレテ直々ニ之ヲ日本輿論トナシ或ハ已ニ政府ノ
意志ナリト誤斷シ日本ニ震ノ再生ナリト鼓吹

在清國日本公使館

セシムルニ至レリ皇等モ亦多ク原因ヲラズレバ
アズ殊ニ中村博士ノ論文ニ就テハ表紙總督自ラ
小女ニ就テ其意氣ヲ損シ且ツ中村博士ノ日本
ヲケル位置及勢力ノ向ヒタルアリタルヨリ見
モ如何ニ日本ノ皇徳ニ注云ヲ拵ヒツアルヤヲ
ルニ是レ也

一考者ノ説トシテ公衆ノ認リスルに固ヨリ妨ケル
ナリト皇方氏ノ説ノ如キハ今日日本人トシテ
抱持セサルモノナキカ如キ策論ナルヲ以テ之ヲ記
亦大ニ通言セサルハカラスト信ズ

皇等諸種ノ遠因固ヨリシテ支那人ノ肥體
日本子能ハ再生ナリト觀念ヲ起サレ北東政
府先ツ之ニ傾キ總督配ニ大小有也云ニ傾カ

MT 11212 00061 MT 11212 00060

カ素 総督如何、其根本的觀念、其基ヲ東亞
 ハ黃人種ノ東亞ナリト謂ヒ日本ノ為スルハ、東
 セントスルモ彼人忽々北洋ノ重鎮タル位置ヲ失
 ヒ個人タル素ヲ能ハ何ヲモナスコトハ不為ニ地
 清ノ擾乱ヲ再演シ戦禍ノ及スル所傳リ東亞
 止マラザルニ至ルナキヲ期セズ是レ總督ノ素
 百夢ノ臥小友モ亦同憂ヲ抱ク所ナリ、
 總督其素ノ灼ク沙言ニキキヤリ
 總督個人トシテ其位置ヲ失フニ由リ、小友ナルモ
 戦禍ヲ廣大スル地域ニ及ホス識ニ小友ニアニス
 元ノ目ニ在リ地ノ情況ニ就テテ判斷スルハ作戦
 最後ノ目的ヲ達スル為メニ素面的ナル情中ニ在
 在清國日本
 彼トシテ日本ノ德ヲ懐カシメテ十分ニ之ヲ利用スル
 フ以テ得テ策ナリト信ズ
 取、最後ノ目的ヲ達スル之ヲ待シ之ヲ放ツニ我意
 ノ欲スルカ依テリ出量ニ水軍中村村ヲ守ル世々々
 待タシヤ
 素口ノ道台拒絕、其果ノ水雷艇捕獲固ヨリ
 理由ノ存スル所ナルベシトモ是レ聊カ情五例ノ情況
 ヲ報センガ為メ素臣督ノ素意ト懸シ述ビん沙
 斯ノ如シ
 (終り)

MT

11212

00063

MT

11212

00062

極秘

日清戦争

機密第貳九號

在

歸任後日露戦局、因之慶親王及伍廷芳ト
會談始末、同王ト表立凱トノ間柄、因スル件

極下

極秘

上、各々、電

在英、海軍、

第八〇六號

日露戦局ニ対シ今後清國ヲシテ執ラシムルニテ態度ニ因シ
テハ本使在東出發ニ際シ訓示ニ次第モ有之又本月六日
本使歸任後間モナク陶大均來訪シ慶親王モ領リニテ使
トノ會談ヲ希致王ニ居ラシ、旨ヲ申述シ且ツ其語氣ニ依リハ
同親王、今回本使帰朝ノ結果トシテ或リ清國ニ對スル我
態度ニ何等妥変ナキヤサ心配ニ居ラシ、ヤニモ破察ハニ付
帝國政府、趣旨ヲ同親王ノ胞裏ニ深ク印象セシムルニ、今
回歸任後第一次ノ會談ニ於テスルヲ以テ最モ効力アリ
ト思考候、付去ル九日同王ニ面會シ一應ノ推移ヲ統ルヤ

在清國日本公使館

直ニ戰局ニ及シ從來ハ訓示ノ趣旨ヲ繰返シ帝正政
府ノ態度ニ何等妥変ナキヲ述、今後日清兩國ニ益
其關係ヲ親善ニセサルニカラサルヲ説キ他日戰局其終リ
ヲ告ケレトスル片ニ至ラバ必ラス内外ヨリニテ擬向中傷ノ策
行ハシ誑言百出ス、キニ付最モ注意ヲ要ス、キコトナリ、幸
ニ滿洲問題、初度ヨリ常ニ能ク帝國政府ノ忠告ヲ容レラ
シ其成行ヲ知悉セラシ、同親王カ清國ノ局ニ當ラシ、コトハ
日清兩國ノ為リ最モ善クニキコトニテ、又同親王カ昨年
本使出發ノ際本使ニ向ヒ清王兩陛下ニ於カセラレテモ、清
國政府ニ於テモ事局ニ對スル最初ヨリノ態度ヲ變更スル
モノニアラサルヲ以テ本使帰朝、上ニ我
皇帝陛下ニモ、又帝國內閣諸大臣ニモ此ノ意ヲ言明セラシ
テ差支ナシト轉話セラシ、タハ次第ハ本使帰朝後我

MT

11212

00065

MT

11212

00064



皇帝陛下ニモ親シノ奏上シ奉リ又總理大臣兼外務
 大臣トモ及報告置ク人旨ヲ語リて慶親王ハ本使ノ亦
 説ニ對シ一々賛同ノ意ヲ表セラレ西宮ヲ始メ清國政府
 於テハ飽近最初ヨリノ態度ヲ固持スルノ決心アルコトヲ保
 返シ又本使ノ間ニ答テ清國カ日露ノ間ニ立テ調停ヲ
 試ミルカハ考ヘラ有セザルコトヲ述ベ戦争終了後滿洲
 ノ処分ニ關シテハ萬事ハ明ケテ本使ト協商スルコトヲ希
 望スル旨ヲ述ヘラレ旅順開城其他我軍ノ成功ニ對シテ
 小形ニ満足シ居ラシモノト見受ケ申シ本會談ノ大要
 本月九日第四十五號 電報ヲ以テ及ハ報告書
 ヲ得共尙當日開卷ノ要領別紙ノ通り通訳ノ任ニ委
 シ鄭ニ等書記官ヲ以テ筆記セシメハ参考ニテ及
 此送附ハ開ハ査閱ニ成度也

在清國日本公使館

將又慶王ト直隸總督袁世凱トノ關係ヲシテ親密ナラ
 シルコト我ニ取リ最モ得策ナリ其ハ日露開戦前電報
 ヲ以テ本使ノ意見ヲ具申シタル通り有之開戦後モ引
 繼キ兩者ノ間柄ヲ親密ナラシムルコト出来ハ限リ盡力
 罷在テ慶親王時慶王ガ本使ノ内願ヲ容レ滿洲ニ於テ
 露軍ノ情報ヲ我軍事情當局者ニ供給スルコト、馬
 賊使用其他間接ニ我軍ノ行動ヲ補助スルコトヲ袁ニ一
 任シ袁カ能ク機宜ニ適スル所置ツ為シ其任務ヲ尽シマ
 ンコトハ慶王ニ少ナカラサル安心ヲ共、多ク其者ノ間柄ヲ融
 和スル動機トモ相成タルモノ、如ク袁モ亦漸次慶王ニ對シテ態
 度ヲ改メ従来他人ニ對シテ慶王ヲ非難スルコトヲ憚カラサリ
 此モ遂ニ其事ナキニ至リ又去年未本使歸朝
 前ニ内閣ニタルコト有之、慶先般歸任後又内閣ニ

11212

00067

11212

00066

11212 00069
 在清國日本公使館
 11212 00068

11212 00069
 11212 00068

口實傳滿洲

第一回

ナルヲ以テ此終末ニ元ヲ日本トモ又露國トモ之ヲ協議
 セサレハカラカレトコトヲ專口ト使ノ詰話ニ爲シ若シラレタル
 コトアノミニ有テ表ノ不謂控議トハ在ノ若シテ意味シ
 モノヤ又ハ清國政府ノ内議決定ニ居リ日露講和ノ
 際ニ清國モ之ニ参加スルコトヲ慶王ヲ使ニ提議
 スルコトニ成リ居ルヤハ判然致サズ水滸共ニ二十六日五
 廷芳カキ使ヲ訪向シタル節ノ詰話ニ於テ彼一己ノ考
 一ナルヤ又ハ清國政府ノ意向ヲ代表シタルモノナルヤハ不
 明ナレバ彼トモ今尚ホ戦局終了ノ曉ニ列國會議アル
 モノト思惟シ居ルモノハ如ク露國ニ戦事ノ例ヲ引證水滸
 露國ニ戦事ノ場合ト日露戦事ノ場合トハ全ク其趣リ
 異ニシ露國ニ戦事ノ結果ハ他ノ歐洲列國ガ其以テ露國
 ト締結スル條約ノ條款ヲ変更スルモノナルヲ以テ然ト其
 在清國日本公使館
 始末ニ参加セサルヲ得サルコト勿論ナレバ日露戦事ノ始末
 ニ列國ニ之ニ参加スルキ條約上ノ根據ハ勿論其他何事
 ノ因由モ有セザルミナラス別強モ亦之ニ参加スルコトヲ
 一ト相辯シトモ露國シモ之ヲ首肯シ次ニ日露講和條約
 ハ何レノ地ニ於テ締結セラレキヤト問フ起シ講和條約ハ
 通例之ヲ戰地ニ於テ締結スルモノナリト答ニ對シ夫ハ豫
 備條約 (Preliminary Convention) ンニ過キスミテ正
 正式ノ條約ヲ締結セザレハカラカレ必要アルコト清國モ滿洲
 ノ主權者トシテ日露兩國ト協商スルノ必要アリ例セリ旅
 順口ノ如キ租借期限満了ヲセズ清露間ノ條約ハ悉トク
 有効ナルコト何事カノ商議ヲ要スルコト何レノ地
 ニ於テ第二次ノ會議ヲ開カレキヤト問ヒ暗ニ清國カ此
 會議ニ参加スルコトヲ希望スルノ意ヲ示シ居ル本使ハ之

MT

11212

00071

MT

11212

00070

対し第二回會議ヲ必要トスルヤ否ヤハ全ク講和條約
 ノ性質如何ニ由ルモノニシテ露國ノ如キ國柄ト強後ニ於テ
 協商ヲ成就セシムルコトハ頗ル困難ナリ可成ハ講和條約
 ニ依リ凡テノ問題ヲ協定スルコトヲ謀策ナリ又清國ハ日本
 滿洲問題、國ニ協定ヲ要スルコトハ勿論ナリ先ツ日露
 間ノ講和成立後ニ爲スキモノナリ清國ハ露國ト協商
 必要トストク否ヤハ全ク講和條約ノ規定如何ニ由ルモノニテ
 若シ日本ハ露國ヲシテ滿洲ニ関スル一切ノ清露條約ヲ
 破棄セシメ得ルトスレバ清國ハ強ク露國ト協商ヲ爲スノ
 必要ヲ見ザンナト考ヘタルハ彼レハ夫レ國ハ然ラカ日清間
 ノ協商ハ何レノ地ニ於テ開始サルヤ日清戰爭ノ場合
 ニ於テハ馬店ニ於テ之ヲ開ケル北京ハ右國使臣駐在也
 テ故障後出シ商議ニ便ナラス上海辺ニ何ト推尚シタル
 在清國日本公使館
 吾右國多故障ヲ提出スルモソトスレバ何レノ地ニ於テスルモ
 提出セラルルコト到底之ヲ免カルコト能ハザン次第ナリ先ツ貴
 國ハ何人ヲシテ日清協商ノ任ニ當ラシムル考ヘタルヤ日清戰
 争ノ場合ニ於テ張蔭桓が其使命ヲ果タスコト能ハザリ
 之ハ貴下ノ實見ニシテトコナリ尙貴國ニ於テ最モ有力
 ナリト李鴻章ノ馬店出張ヲ待テ始メテ講和談判開始ニ
 タンニアラスヤ今ヤ李使ノ見ルトコトニ依リハ日清協商ノ任ニ
 當ルヲ當ルモノハ慶王ヲ除キ他ニ其人アランヲ知ラザンナリ而シテ
 貴國ノ事情ハ能ク慶王ヲシテ北京ヲ離レシムルコトヲ得ル
 ヤ李使ニ於テ疑ナキコト能ハスト述ヘた處彼レモ全ク然リト
 考ヘ更ニ話頭ヲ轉シ具領ハリタリ電報ハ現ハシク露
 國側ノ平和條件ニ及ビ頻りに我意向ヲ探ラント勉メタ
 之氏李使ハ平和條約ノ如キハ今後戦局ノ發展ニ從ヒ要

MT 11212

00073

MT 11212

00072

更なるモノニシテ今日之ヲ論究スルキモノニテラザンガハ一タリ
 電報、現ハシク條件殊々露國カ自カラハハビシ以北リ
 係有ニナカラ其以南リ清國ニ還付スルモト云フカヤキハ露
 國カ未タ戰敗者タルコトヲ認メザンノミナラズ却テ自カラ戰勝
 國ヲ以テ任ズルモノト見ルノオナク露國カ此ノヤキ誤想ヲ
 懷キ居ルノ同ハ到彦真正ノ平和ハ企圖セラシ難ク彼レ
 大ナキテ自覺セシメントコトアラザン限リハ東洋
 永遠ノ平和ハ望ムヘカラザンナリ日存カ數十萬ノ生民ト巨
 億ノ資トヲ犠牲ニ供シ一國ヲ賭シテ、我ヒナカラ女息ノ
 平和ニ甘シシ露國、他日捲出重來ノ機ヲ共ニシタリト
 云ハルコトアルモ恐密スルコト能ハザンナリ且ツ清國ノ立場
 多シテ論スレバ將來露國ノ東方ニ於ケン失敗ヲ蒙古
 新疆若クハ陝甘等ノ地方ニ於テ償フノ策、出ルコトナキ
 在清國日本公使館
 ノ係セザンニ分清國今日ノ急務ハ靜カニ自己ノ力ヲ養フ
 テ他日、憂ニ備フルニ存リ滿洲ニ於ケン日露戰爭ニ對シテ
 清國ノ寧リ日本ヲモ露軍カ全敗復ヒ立ツト能ハザンニ
 云ルコトヲ祈ルニキ必要アリ故ニ清國ノ戰局ノ發展ニテ
 益々露ノ窮境ニ陥ルコトヲ待ツテ自カラ進テ平
 和調停ノ議ヲ提唱スルカヤキハ最モ愚策ナル旨ヲ辯シ
 置キ也
 當日任廷芳カ協商ノ場所又ハ講和條件ニ関シ本使ノ
 意向ヲ探ラントシタハ慶王ノ内命ヲ受テテ袁世凱ノ所謂
 提議ヲお出ス下地ヲ作ラトスルノ意ニ出ス人モノナルカ又ハ全
 人限リノ参考ニ資セントシタムモノナルカハ判然セザルモ袁ノ
 提議云々有之、多クハ参考トモ一可成ト存シ長文ヲ顧
 ミス一併ハ報告申進及次第ニ有之、尤モ任廷芳ハ本使

MT

11212

00075

MT

11212

00074

0045

カ帰任後彼レ訪問シタルトキモ亦今日來訪ノ折モ昨奉
 來彼レが屢ニお使ニ内話シタル言ヲ繰返シ中央政府一人
 モ事理ヲ鮮シ得んモノ無ク清國ノ前途ニ絶望ナリト嘆
 息シ二三十年後ニ或ハ目下新教育ヲ受テ成ルモノハ
 世トナラフ多ク面目ヲ改ムルコトアラシモ今後二三十年が
 清國存亡ノ關鍵決セラルンキ時期ニシテ一朝意外ノ変下
 ラカ後進者ニ其人ヲ得ルルモ何ナセ唯一朝意外ノ日本
 人時勢ヲ解セスト難ク已ニ忠ナルモノト否トハ之ヲ識
 別スルコトヲ得んナリ故ニ最初ハ日本ノ忠言ヲ喜ハサルモノ
 アルモ家ニ其善ク意ノ忠告ナルコトヲ看取スルニ至ルベシ
 要ハ迫リ之ヲ行ハズんニ在リ殊ニ皇太后ノ如キ幸使カ
 其説ヲ審ラカシメ直捷内奏スルトコトハ於テハ必ス傾
 聴セラルトコトハ下人ニシテ中絶ノ旨ニ付お使ノ内奏ノコト
 ハ他日或ハ伍ト更ニ内話スルキ時機モアリトガ伍ノ如キ衷心
 國ヲ憂ヒ時務ヲ通ズルノ士ニテ軍ニ不平ヲ鳴ラズルモノ
 自カラ進ニテ國政改良ノ任ニ當ルノ勇ナキハ何ト及問
 レンニ彼レ目下清國人トシテハ何レノ人物ニ其任ニ當ル
 コト能ハサル事情ヲ陳述シ日本ノ忠言モ威力ノ之ニ伴フ
 ニアラサレバ其知ナシト辨ニ伍自身ハ一日モ早ク北京ヲ去
 リテシトテ豫テテ希望ヲ繰返シ居ラタリテ見シハ前頭
 上海ニ於テ日清協商ヲ開始シテハ必何レノ相ノ如キハ彼レ
 自カラ為ラズスントコトハアリタニアラサレカトモ思考ヲ致シ
 右報告申進ヲ敬具

在清國日本公使館

明治廿八年二月廿六日
 外務大臣男爵小村壽之助 殿
 特余全權使内田康



MT 11212 00077

MT 11212 00076

明治三十八年二月九日午後三時内田公使慶親王對話要領筆記

内田公使帰任後接接済の難詰之末

公使より最先般奉使の慶親王陛下ノは思召界
貴王よりは話話の概々帰國後内皇帝陛下ニ呈奏上之文
總理大臣並に外務大臣一モお清之んニ両大臣共満足
レヨリ就テハ向後トモ露ハ益ニ話言ヲ救ケ又ハ種々ノ手
段ヲ運ラシ日清兩國間ハ氷ヲ差スルキ業ヲ行フキ
ニ貴國ニ對シ何等ノ中ニ以テ為ス様ノエトアノモ貴國政
府ハ此レニ動カサレサル様致シ

慶王云々世間ニテハ黃禍ノ説ナドヲ稱道ニ或ハ種々ノ
論議ナキニモアラサレ我西陛下ニ於カセラシテモ又我政
府ニ於テモ是レノ事告ケ変更ハ人々キコトハ味シテ

在清國日本公使館

云々

内田公使云々元來調停ヲ為スニ其調停ニ從ハサン
中ニ之ニ從クニ兵カヲ以テラシム非レバ相傳ノ致キモノニシテ
東洋平和ノ為メニ他國ニテ口頭ニテコリ難ク論議スル
モノアレ實際兵力ヲ動シテ露國ト相争フニ云リ然レハ
レニテ我帝國アノニ故ニ此際帝國政府ハ他ノ調停ニ
依テ露ト和ヲ講スルカキコトナキニテ露ヲモテ東洋ノ平
和ヲ永久ニ維持スルキ條件ヲ兼議セシハん込ハ飽テ戰爭
ヲ繼續スル決心ヲ有スルモノナリ蓋シ他ノ調停ニ依リ戰法ヒ
クン平和ハ真ノ平和ニヤラスニテ休戰規約タニ過キカレ
ノリ今ヤ日本ハ幾十萬ノ生命ト幾億ノ軍資ヲ犠牲ニ代
ニナカラ軍ニ一時的ノ平和ヲ購ニントスルカキ政府ハ勿論
國民ノ忠告ニ從フコト能ハサントコトナリ然レ而シテ實際露ヲ

白く書下以下ハ
名字トシテ印リ
り香ヲ好クマシ

MT

11212 00079

MT

11212 00078

シテ東洋永久ノ平和ヲ維持スルニ條件ニ服從セシム
ルコト露カ此ノ上大敗戦ヲ為シ露自カラ我ニ和ヲ請フ
アラサレバ其目的ヲ達スルコト能ハス露ニ貴國政府ハ王大臣
ヲ派シ他國ト聯合シテ調停ヲ試ミントノ説アリシカ松井代
理公使ノ電報ニテ其事實ヲサリシコトヲ知ラズ今後
共貴國政府ハ決シテ輕シク調停ヲ試ムルノ舉ニ出テサ
ラシトシテ希望ス

慶王云シ調停ノ一ニ同意テ露ニ貴公使及松井代理公
使ヲ尋ネテ對シ答ハメんカヤク我政府ニ於テモ決シテ
輕シク之ヲ為スルナレバ貴國政府ニ於テモ此点ニ同意セシ
ム

公使云リ今回露國內ニ於ケン擾亂ノ根底アンモノヤク
現ニ昨今ノハートル電報ニテ貴王モ此最知ノ所ヲ露
在清國日本公使館

國皇族中ニテ日本ト和ヲ講スニトノ議ヲ為シ多クト
ナカ素ヲ其真偽ノ判セサレ凡露國內ニ和ヲ講セトス
モノアンコトハ事實ニシテ又右國ニ於テモ一日モ早ク平和ノ
恢復ヲ希望スルノ情アルニ當テコトナカ平和恢復ニ
清國ノ立場トシテ深ク注意セサルヲ馮サンコトハ或ハ清
國ノ犠牲ニ供シテ此戰局ヲ收メトスルノ策ニ出カトナシ
ト七難計ニテ貴國政府ハ此点ニ先ク注意ヲ加ラシ漫
クニ講和ノ説ヲ提唱スルカヤコトナキヲ希望ス又自
トテモ何時迄モ和ヲ講セスト云フコトナラス時機到來スル
於テハ英米兩國ノ如キ常ニ東洋ノ平和ヲ希望スルニ
對シテハ内々我政府ノ意向ヲ漏スアトモアン(慶王始メ
清國當局者ハ英米ノ清國ニ對スル政略ト相違アンコトヲ認メ英
諸國ノ該國ニ對スル政略トノ間ニ相違アンコトヲ認メ英

MT 11212 00081

MT 11212 00080

米ヲ以テ比較的野心中ナキモノト思考シ居ルハ故ニ彼ホ
ツミテ日存ハ出來馮ハ英米ト意思ヲ疏通シ居ルニ
ト思ハシムルハ故等ニ大ナル安心ヲ與フモノナルヲ以テ言
及ミル所以ナリ

又滿洲ノ一ニ就テハ一方ニ露國ト協議シ又一方ニ貴
國ト協議シテ之ヲ決定スルニ自國ノ意向ヲ
顧ミスニテ單獨ノ行動ニ出ルコトナキコト肝要ナリ

慶王云ク滿洲ハ我疆出ナルヲ以テ北始ホ元ヲ貴國
トモ露國トモニツ協議シテ決定セザルハカラザルモノナリ
公使云ク公使百守中ニハ公使カ他ニ轉任スルナドノ該
僑ハ人モノアリシ由ノ處右ノ根據モナキコトナリ今
後ハテモ如何ナル方面ヨリテ離間中傷的ノ謠言起ラザル
トモ限ラザルガ此等如何等傾聴セラルコトナキコトヲ希

在清國日本公使館

陸ス貴王ニ義和團變亂ニ來大局ニ當リ杞憂ノ位ニ
ニ立ケ奉局ノ成行ヲ熟知シ居ラシ又公使モ強ク滿洲
問題ノ初者ヨリ之ニ回答シ貴國ト露國トノ條約其他
ノ成行ニ因シ充分知悉シ居ラシ他日該問題協商ノ場
合ニ至ニ萬事ハ明ケテ相談シ得ル便宜ヲ有シ居
ル間柄ナレバ公使領ニ因シテ決シテ他國ノ容喙ヲ許
サレザルコトヲ致シシ

慶王云ク貴國皇帝陛下ノ聖明ナル貴國政府ノ方
針又貴公使ト從來ノ懇親ナル點ニ為シテ元來三省ノ
件ハ預メ貴公使ト私衷ノ協議ヲ為シ而シテ後露國ト協
議ヲ為スコトハスレシ云々

MT 11212

00083

MT 11212 00082

機

機密送第 / 5 號

機密送第 / 9 號

機密送第 / 9 號

機密送第 / 0 號

機密送第 / 0 號

機密送第 / 7 號

機密送第 / 0 號

明治廿八年四月十一日起草
同日發遣

明治廿八年四月十一日發遣

主任

文書課長

明治廿八年四月十一日發遣

外務省

日露戦局、東亞海軍擴張、
及任廷若、上田、後、合渡、修、等、
、日親王、下、意、世、凱、万、極、之、意、也、
、試、田、田、之、使、一、若、若、主、子、弟、也、
考、及、其、意、旨、也、

外務省

MT 11212 00085

MT 11212 00084

清曆三月四日及五日、行テ日本人船之乗リ渡ル所
 所屬長嶼嶋ニ赴キ嶋内高腦子地方ニ日章旗一
 旗一棧州知州ノ報告書ニ紅白旗トヤリ十一本ヲ
 樹立シ其周圍約百五十情里ニ及ブ同月七日及
 八日、行テ又日本人アリ長嶼嶋内拉子山其他ニ
 去リ旗五本ヲ樹立シ又同月十一日及十二日、於テ
 清國人胡某等日本人ヲ派遣セリテト稱シ
 長社恒社廣社義社豐社永社等ノ六社ニ至
 リ木標八百四十七本ヲ樹立シ其里程百三里ニ及
 ブ昔據州知州ヲ將軍ニ報告セリテ其趣ニ長
 嶼嶋長嶼嶋及長社外五社等ハ何レモ據州ノ
 管轄地内ナシト係ト云フ據ニ國旗及木標ヲ立ツ

在清國奉天日本總領事館

ツルカ如キハ何人カ何レノ命令ヲ受テ行テおしんモノ
 ナリヤ爾ヲ何カノ照會ニ接シん事ナリ甚カク怪
 訝ニ堪ラズ以テ速カニ取調回奏有ラズ及又中
 立地界標立會取調ノ件ニ察シテハ曩ニ照會
 及心置タルト係ト云フ今以テ回奏ニ接シテ目下時
 候已ニ暖氣トおもふタルニ際シ速ニ双方ヨリ委員
 ヲ派遣シ立會調査スル事ヲ付是ニ付是ニ係リ
 回奏アリ候旨今同當地交渉局ヨリ照會致
 来リ外処右各嶋嶼内ニ本邦人カ標旗ヲ樹立シ
 之件ハ或ハ貴都督府ニ於テ御承知ノ次第ニ可
 有ラヤト思召存候所存一應及仰初階中
 了悉シ御承知ノ段ニ有ラズト其事實及
 何カノ理由ニ基クモナラサテ御用示有ラズ後別紙

MT 11212 00088

MT 11212 00087

在清國奉天日本總領事館

堪明知明、將軍家報告書寫一通、
申進、致具

明治四十年五月二十一日

在奉天海防事務館

事務代理領事官補吉田茂

園東和智男爵大鴻茂昌啟

MT

11212

00089

REEL No. 1-0059

0059

復州知州吳瞻莪稟稱竊於本月十一
 十二等日訪聞州屬長興島花椒島等
 處有日本人分往插立旗幟又在長社
 恒社廣社義社豐社永社等六社境內
 合埋木樁當即先後飭派巡官陶寶珊
 等分往各路確查去後茲據長興島社
 長孫玉堂稟稱本月初四五等日日本
 人乘船進島五管界高胞子等處插立
 紅白旗十一桿旗下有石之處均用白
 漆塗抹為記周圍約一百五十里諸其
 插旗之因日人含糊答覆而去又據花
 椒島鄉約謝景樂等五名稟稱本月初
 七八等日日本人至伊等管界拉子山
 雲台山小島黑靈山三稜山等處各插
 旗一桿台子山等處均用白灰塗記又
 據長初恒社廣社義社豐社永社等六
 社鄉約李天元等十五名稟稱本月十
 一二等日有中國人胡姓二名劉姓一
 名在各境內分立短矮木樁以記界詳
 明德性堅定尋理通達心氣和平等字
 編號共計立樁八百四十七根計程一
 百零三里詢問胡姓等但稱日人所造
 並不明言何用理合先後稟請核奪各
 等情前來卑職覆查屬實查日人此次
 在境內插旗立樁既未奉有明文又未

在清國奉天日本總領事館

MT

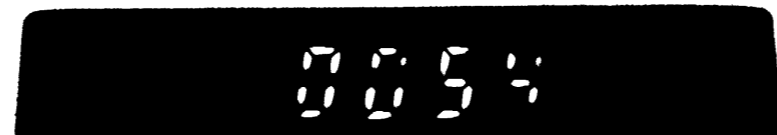
11212

00091

MT

11212

00090



先期照會其用意殊難揣而民間疑慮難安談日人先因何事插棋埋樁應請與駐省日本總領事就近詰阻

在清國奉天日本總領事館

MT 11212 00092

REEL No. 1-0059

0059

第3門

明治四十年九月一日接

管政務局

公信簿二七三號

止

受領 一九〇七年

九〇七號

ハ原抄ノ及リ信信局ヨリ

滿抄外交、關ニハ内地
新聞切抜送付ノ件

滿抄外交ニ關スル内地發行ノ原
字新聞中本月廿三日ノ中外日報
ニ於テ別紙切抜、通ノ論親掲載
致復函為所考及申送付也
明治四十年七月十四日

在上海日本總領事館

館長尾崎



四十年九月九日記錄編纂接

在上海日本總領事館

外務大臣對林董殿

MT 11212 00094

MT 11212 00093

東三省近狀之概言

國朝定鼎以來。以東三省為發祥之地。視等編。豐別定陪都之制。於盛京建設六部。向例咸以滿員充之。其政治特異於各省。故由各省視之。亦與西藏蒙古同一觀念。所徵異者。則官中有歲協之餉。商界有牛莊營口懸遷之往還而已。又以其地偏僻。於東北昔交涉。獨有俄自尼布楚以至愛理之約。其職役皆屬之。其時交通。迥遜今日。故奔山以鳥蘇里河北岸上。至興凱湖數千里之地。割而昇。俄遲至十餘年。俄人經營海參威時。乃始發覺。迨至光緒初年。與俄劃界。政府漸悟。滿員之不

可恃。乃以吳大澂充委員。重立界碑。吳會建銅柱於邊。而為銘曰。疆域有表。國有維。此柱可立。不可移。又觀當時紀載。則吳頗勤於厥事。觀其所作紀事之詩。有尺地爭回。豆滿江之語。按豆滿江。即圖們江之本稱。其時江口全為俄佔。吳與力爭。始定為中俄兩國共有之水道。由今觀之。屢歷世變。吳大澂勤勞之績。已等諸疾風中之落葉。不知飄飄何處。是可慨也。庚子之役。壽山承端王意旨。貿然與俄開鑿。開門揖盜。授人口實。遂啓俄兵之侵掠。政府乃大覺悟。深悉滿員不可復恃。乃於其際。超擢令黑龍江巡撫程德全為黑龍江將軍。一程時以安

所倚賴。以不阻者。實保固於此。然吾觀外務部於東三省之外交。既處於孤立。無援則亦委心任運。俾其以待人。盜錄其背。以待人。拊舍此之外。不復更求一術。如海牙保和會之派代表。不於此事稍提一議。而轉撥情於問散問題。又如美日近來之交惡。在敏腕之外。外交家大可因此利用。而竟視等於對岸觀火。凡其無能之狀。固已底蘊畢露。况更授人以兵。引纏自縛。如奉新長吉之約。大連關稅之特約。其波棄國體。割不復者。尤為晉外交上從來和平時締約之所無也。

夫日俄戰爭以後。日本挾其戰勝之驕氣。視東三省為其報償之物。予取予求。羌無紀極。然其宣言。猶在口血未乾。若明出於侵畧。不獨懼列強之責言。且其國際信用。亦必因以墜失。故以掩耳盜鈴之計。行其函浪侵畧之謀。此如設立南滿洲鐵路。公

可以囊括。席捲為實業。上一網打盡之計。而更以圖圖之語。解釋關東州之名詞。飛灑影射。乘間以逞。充其慾望。不至舉滿洲全境以納諸彼。所謂關東者。不止於斯之時。在吾政府固未聞有何種之補救。其稍獲有補救之效力。使封豕長蛇。猶得暫紓其磨牙吮血之禍。者。則趙次帥之功績。不可沒也。蓋今日世界既為列國並立之世。則國家主義固不可以不講。人我之

徵直隸州賞副都統銜署理將軍。此種舉動。實屬今日東三省改官制之先矣。及夫日俄戰罷。增祺之密約。失其效力。乃以趙次帥。尚書為盛京將軍。授以改革之權。迨至今年二月外。官改制始於東三省之議。既決。東三省設一督三撫之制。遂因時而發布。而一督三撫。率皆以漢員充之。議者不察內容。轉信此事。為滿漢不分實行之兆矣。

要而論之。昔之東三省。淹隱廢滯。而鮮外交。故為滿員所窟宅。而視同獨享之禁。今之東三省。不特為日俄逐鹿之原。且為世界垂涎之地。其蟻根錯節。必得利器始可勝任。此今昔難易情形之大較也。矧自日俄戰爭以後。日人恃勝而驕。已成喧賓奪主之勢。彼其加施於我者。蔑理怙勢。以伸無藝之求。此如內地雜居。礦產森林。鹽業漁業。警察種種大問題。或係國權之升替。或處居民之生死。彼於國際公法。不少自瞬。而皆以強橫出之。得步進步。頗有不遂不止之勢。蓋彼因戰爭喪失者。將以倍稱之利。取償於此。所謂馬昭之心。路人皆知者也。

於斯之時。內則海陸軍旅。不足自捍。不能為最後之訴。決外則孤立無援。處於一矢易折之地。而無連衡與援。可以援助。則所得圖維。以自保其尺寸者。仍惟恃於外交之術而已。願板柱於外交界者。內則外務部。外則東三省總督。東三省一線之生命。間利害厚薄之見。不可以不兢兢也。願趙次帥既以防衛國權。為彼國所嫉。視其無理之警。申見於日本各報者。汗牛充棟。更僕不能悉數。此何足怪。最可怪者。則次帥亦且以此不悅於政府。而不安其位也。以吾徒初心揣測。固猶以為政府之移趙次帥而。易以徐菊帥。殆以菊帥之能力宏濟艱難。於東三省將有加於次帥也。

夫徐菊帥以樞府。員出而開。三省其位較尊。而其權亦更大方。其抵奉天日。即有日人歡迎之舉。吾徒初意以為日本始震於菊帥之聲威。已有幡然悔悟之漸。向之無理要求。欲為種種壟斷之侵畧者。或將因此而減少。且菊帥位勢雖尊。其由中歐外者。固以此為第一。次新酬之刃。必當更利。矧夫。朝廷任之於此。方而隆重。實無倫比。亦猶有以酬新恩。遇振衰頹。而使刷新也。願以近日所聞。則知菊帥獨當外交。不受節於政府者。其偉畧所施。初無過人之處。不過俯首聽日本之要求。曲從日人之意向而已。以近日傳來消息。東三省之外交。實有如斯景象。而據本報初六日專電。則凡日人前此所不得於趙次帥。努力要挾。爭持累年而不決者。今則徐菊帥悉枉已伸人之手段。將順其意。而登如日人之欲。望以予之矣。嗚呼。事勢至此。亦何貴有此改革。有此移易耶。向曾有譏政府發憤為雄者。觀於今日。盛京交涉界之現狀。是實發憤為雄也。

00096

00095

附志奉天外交近情

據北京某報言徐帥履任後即以陶杏庵觀察為交涉局督辦所有從前與日人交涉各事均由陶觀察一手議結關於七八日間已結重要交涉七八起日人頗喜其神速云茲將所結各事開列如下

一奉天全市通商 向來條約言某處通商必係在該處劃出一處作為指定通商之地並非將其地全境皆許外人設立市面也近年英人於長沙頗有不肯於所指定通商而欲闖及城內之事日領事前與趙次帥議奉天通商亦以此為言次帥屢加駁辯以果如此辦理則當名為中外雜居於行政一切極多不便且於民間生計被擠亦甚已力與英領事往復辯論現陶觀察已允許全市通商矣

一屠獸場 屠獸場為衛生行政之公共營造物前時日本已於各城外設立數處趙次帥派員與日領事商議遂漸閉歇一面由我國自辦現陶觀察已允日領事之請仍許日人開設至從前已建設各處則均停廢云

一警察派出所 警察派出所即中國之守備所為地方行政最要之事項無外人亦可辦理之理前日人以軍務為名於各要區均有設立經大吏力與爭執業將昌圖之警察派出所撤去至奉天城內之警察派出所則商之英原君須撤回領事署中現陶觀察已允不撤矣

一安奉沿鐵路及附屬地之駐兵 日人在安奉鐵路附近駐紮兵隊原係日俄戰時軍事上之政策中日約中並無明文前經奉省大吏與之交涉日人已允撤現陶觀察復允其駐紮

一安奉鐵路沿線之礦產 前東京清道沿路三十里內之礦產均許俄人開採由外務部奏明其已為俄人所購者不在列青島兩省已擬訂完

合同奉省以戰事尚未簽字日人前於安奉鐵路亦向趙次帥要求此項權利次帥以安奉鐵路係日俄開戰時由日人軍事行政時敷設不能援照此例爭持未決現已由陶觀察允開撫順平台山之礦亦在其內云

一關東州之鹽 向來與各國訂立條約均無許外國食鹽進口之例並有聲明不得進口者故趙次帥與日人商議凡中國鹽運均歸中國管理日本新設之鹽灘則由中國鹽務局償還設備亦歸中國管理至未議結以前日人不得入內地販運則沒收前已捕獲私犯數起並將鹽斤充公其已賣得之價

一併入官現已由陶觀察允許日領事將前沒收之鹽一概交還
一高景賢案 高景賢本一無賴特開東州漁業組合為護符平蓋牛漁業公司大言要挾該公司總辦黃太守家不為所動彼竟開槍擊黃太守為該護計不得已還相格殺日人乃因之案價迭經奉省大吏據理力爭不認賠償現陶觀察竟允照數履員辦理

按以上數事無論從前已結未結固皆日人所斷斷致辯者今陶觀察於數日之內均已如此解決則奉天之重要交涉已了其半矣惟以本館觀之則所有各事似皆我國屈從日本不知何竟如此開唐中丞於彼處外交以大處落墨不拘拘小節為宗旨其布置籌畫必有大足以慰吾人者在乎